

～全国大会に参加して～

岡山県守る会会長 佐藤 恵美子

今年の全国大会は、全国重症心身障害児(者)を守る会が設立されて、丁度50年の節目を迎える大会になりました。思い返せば重い障害者に対して「社会の役に立たないものには国のお金は使えない」といわれた時代の、昭和39年6月に社会の無理解のなかで、先輩のお母さんたちは立ち上がりました。血と汗と涙で足を棒にして歩き回り社会の共感を得るために活動をされました。重症児(者)を理解してくださる専門家の先生方と緊密な連携のもと、車の両輪となって「最も弱いものをひとりももれなく守る」という基本理念を掲げ、親としてこの子らをどう守っていくかを真剣に考え運動を進めてこられたそうです。お陰様で、今では重症心身障害児(者)に対するいろいろな施策は格段に充実してきました。本当に有り難く感謝の思いでいっぱいです。

6月8日第1日目は、石井めぐみさんの「ゆっぴいに教えられたこと」サブテーマとして(命の限り生きたわが子)と題して特別講演がありました。会場にお集まりの1200人以上の方々は手にハンカチを持たれ涙涙で聞き入りました。その後、感謝の集いに移り、今まで守る会に対して大変なお力添えを頂いた15名の団体・個人の方々に感謝状と記念品をお渡ししました。新聞社の記者の方・作家の方をはじめいろんな分野の方々より、心温まるご支援を陰になり日向になりしていただき、今日の守る会があることを改めて感謝いたしました。

6月9日第2日目は、記念式典で天皇皇后両陛下のご臨席を賜り肅々と行われました。北海道と東京のお母さんが意見発表され、その後参加者を代表し「ちかいの言葉」を言わせていただきました。天皇皇后両陛下がお帰りの時には玄関のロビーでお見送りをさせていただきました。大変光栄なことにお二人からお優しいお言葉を掛けていただき、私自身名誉なことだと感激しています。

岡山からは20名の会員さんが参加されましたが、皆さんそれぞれの思いを胸にこれからも一致団結して重症心身障害児(者)ばかりでなく、弱い立場の人々の生きる権利と幸せを守るために、頑張っていこうと決意し、帰ってまいりました。



「ちかいの言葉」を述べる佐藤会長